

♡ 広報

かっめ 7



シリーズ
好きです!勝沼町

将来を見据えた農業経営を目指し、ぶどう栽培に励む小澤さん

＝収穫に笑顔の喜び＝ ぶどうを見つめる瞳に 情熱と可能性が光り輝く

「長男でしたので、将来ぶどう農家を継ぐ考えでした」と22歳の時から農業経営を続ける小澤泰之さん(33歳・等々力)。

「栽培技術、流通面など多方面にわたり勉強しながら努力をしていかなければなりません」と挑戦は続きます。

現在、ハウスのデラウェアの出荷が最盛期を迎え忙しい毎日の小澤さん。「勝沼ブランドに誇りを持ち、高品質のぶどうづくりに取り組む意欲を持ちながらがんばっています。将来を的確に見据え収益性とゆとりある楽しい農業経営を目指しています。勝沼のぶどうでこれからも消費者に喜びを与えたいですね」とぶどうを見つめる瞳は情熱と可能性で光り輝いていました。

C O N T E N T S

主な内容

6月議会	2~3
特集・ 合併後のまちづくりを考えよう	4~6
スポット・ 第51期ぶどう娘を紹介.....	7
Pick Up生涯学習の広場	8~9



勝沼の美しい風景を未来永劫残したい

特色ある地域づくりを新市へ継承

6月議会

町長の町政報告(抜粋・要約)



平成十七年の第二回定例議会は、六月十七日から六月二十二日まで六日間の日程で開催されました。十七年度の一般会計補正予算案など、提出された八件の案件について慎重に審議が行われ、いずれも原案どおり可決、承認されました。初日の本会議では、審議に先立ち町長から、進捗状況が報告されました。

「甲州市」発足まで四カ月 よりよい合併をめざし協議が進む

塩山市、大和村との合併による「甲州市」の発足まで、あと四カ月余りとなりま

した。四月十三日には県と総務省による新市移行協議が終了し、第十回合併協議会では、新市の組織機構や地域自治区の概要が固まってきました。組織機構は、市長部局を三部十六課、地域総合局は原則四課体制とする方針です。地域自治区には住民代表で構成する「地域協議会」を設置することも正式に決まりました。地域協議会の委員は二〇人以上とし、地域自治区内に関することについて、市長からの諮問を受けるとともに、必要に応じて建議を行うことができる旨が明記され、本町が当初より提案した地域の自治

を尊重した仕組みが整えられつつあります。

市章の公募には、千五百三十五件の応募がありました。半数以上が三市町村外からの応募ですが、町内からも百二十件の応募をいただきました。選考委員会により五点到った後、七月には新市の市章が決定になる見込みです。今後の主な予定は、七月には県議会で廃置分合の議決をいただき、八月には総務省による告示が行われることとなります。職員による分科会や部会等において、条例や規則のすり合わせなど、詰めの作業に精力的な取り組みを行い、正副会長会議や合併協議会において、最終的な決定をしていきます。

地域の活性化と 「コミュニティ強化へ

合併後の地域のあり方を考えるとき、地域の自治、住民による自治をどのように伸展させていくかは、重要な課

題です。このため、合併までに勝沼地域自治区のあり方を検討する「地域自治区研究会」を設置しました。区長会長さんや自治公民館長さん、合併協議会の委員さんなど二十五人の方を委員に委嘱させていただきます。合併後、区や自治公など、「コミュニティをどのように活性化させていくかなど」を検討していただくことになっていきます。

これと連携して、旧村の四地区ごとに、地区振興組織を立ち上げ、各地区の将来像を考えていただくことも計画しています。区長さんや自治公民館長さんと協議を行う中で、活動を進めていきます。各地区への交付金は、当初予算で計上しており、事業の推進にあたっては、地区担当の職員を置き、精力的に取り組んでいきます。この事業は年度内事業として、合併後も三月までは継続して行い、新年度以降、新市の振興事業へつなげていきたいと考えています。



景観まちづくりプロジェクト委員17名に委嘱状が手渡された。今後、「景観ガイドライン」の策定に向け検討が進む

昨年町が掲げた活性化構想「勝沼タイムトンネル百年構想」に基づく、近代産業遺産の整備事業は、先行して進め

てきましたト
ンネルワイン
カーヴが完成

近代産業遺産を
まちづくりに生かす

し、五月二十四日に竣工式を行いました。鉄道トンネルを利用したワインカーヴは、全国でも初めての試みでぶどうやワイン産業の振興、観光資源としての活用にも期待が寄せられています。

本年度から取り組む整備事業は、国土交通省による「まちづくり交付金」の対象として正式に認定され、五カ年計画で町内に残る近代産業遺産を観光資源として甦らせていきます。本年度は、中央線旧大日影トンネルの遊歩道工事、鉄道遺産記念公園や柏尾坂広場等の設計調査を行う計

画であり、五月に設計業者との契約を終え、委託業務に着手しました。

景観ガイドラインを策定

近代産業遺産の整備と連動する形で進めている「景観ガイドライン」の策定作業は、国土交通省の直轄事業として本町のガイドラインの骨子がまとめられ、これをもとに原案づくりへの取り組みを始めました。六月七日には「景観まちづくりプロジェクトチーム」を発足させ、十七人の委員

員の方を委
嘱しまし
た。住民の

みなさんとの協働作業により、合併前には景観ガイドラインが策定される運びです。

農業委員の任期は来年一月末まで

農業委員会委員一般選挙は、告示が七月五日、選挙期

日が、七月十日で実施されます。選挙による委員の任期は、在任特例により平成十八年一月三十一日までで、推薦による委員は合併時に失職し、新市で新たに推薦していきます。東雲ふれあい親子館を建設放課後児童健全育成事業として取り組んでいる放課後児童室は、今後増加が予想され、

小学校単位に順次施設整備を行っていきます。本年度計画している東雲ふれあい親子館は早期に工事に着手し、十月中には竣工を予定しています。

勝沼小大規模改造工事

勝沼小学校校舎大規模改造工事は、現在工事入札を実施し、議会最終日に工事請負契約案件を追加上程させていた

だきます。校舎の老朽化の整備と教育内容などに適合させ内部改造を行い、九月末に完成の予定です。

中学生ボーイ又市派遣交流事業は、九月十七日から二十四日の八日間で実施する計画ですが、本年度は参加申し込み四〇人全員を派遣していく予定で検討しています。

伝統と歴史ある「ぶどう祭り」

十月二日に開催

第五十二回ぶどう祭りは、

立して、大会内容や組織編成

十月二日に予定し、七月一日に発足する実行委員会で骨子が決められる予定です。今や日本を代表するぶどう祭りとして継承されていますが合併後も勝沼町民のふるさとの祭りとして、また、ぶどうやワインの収穫の喜びに感謝する祭りとして、永遠に燃えつづけていただくことを切望します。

第二十一回を迎える勝沼ぶどう郷マラソン大会は、合併協議のなかで甲州市誕生記念大会とすることで合意され、甲州市勝沼ぶどう郷マラソン大会として、十一月六日に開催することとなりました。塩山市と大和村の職員や関係団体のみなさんにも応援して

ただけることになり、七月中に実施委員会を設



ぶどうとワインのまち勝沼のふるさとのお祭りとしていつまでも継承したい

を決めていきます。また、町内の関係団体のみなさまには、これまで同様にご協力をお願い申し上げます。

主な可決議案

今回の議会に提出された案件は八件。税条例の一部改正、一般・特別会計補正予算案などいずれも原案どおり可決・承認されました。

一般会計補正予算

平成十七年度予算に、歳入歳出それぞれ二億七千三百五十九万八千円を追加し、四十四億四千二百五十九万八千円となりました。

勝沼町農業農村情報連絡施設の指定管理者の指定について

これまで町が運営委託していたCATV組合をこれから五年間指定管理者として指定することが議決されました。

工事請負契約

勝沼小学校校舎大規模改造工事請負契約について、電気設備を(株)真栄電気が二千六百万円、機械設備を兩宮工業(株)が五千五百万円、建築主体を長田組土木(株)が一億四千二百五十万円でそれぞれ契約しました。

りを考えよう

～「地域自治区」をどう生かす～



約100名が参加した講演会。地域の個性と住民の主体制が発揮できる合併を考えました

合併まであとわずかとなりました。十一月一日に誕生する甲州市では、旧市町村単位に「地域自治区」を設置することになっています。これまで培ってきた地域の個性や文化、住民による自治活動などが、合併しても後退することのないよう設けるもので、住民代表による審議、建議機関である「地域協議会」を設置して、地域の意思を尊重したまちづくりを進めていくことになっています。

合併後の自治区のあり方を考える「地域自治区研究会」と勝沼町では、地域づくり講演会を七月四日(月)に開催しました。江戸川大学の鈴木輝隆教授を招き「合併後のまちづくり」地域自治区をどう生かす」と題して、全国の事例や自治区の持つ可能性、課題について語っていただきました。講演内容の要旨をお伝えします。また、CATVでも放映されますので、ご覧ください。

「元気度評価」のパロメーター お祭り・イベントと地域活動

……講演要旨

内閣府では昨年十一月に人口二十万人未満の市町村二千九百九十六を対象にアンケート調査を実施しました。調査結果の概要を順に説明します。

まず、地域の現状評価は、六割の自治体が地域コミュニティの崩壊を懸念しています。地域コミュニティが崩れ始め合併の問題や財源的、社会的な問題、少子高齢化などさまざまな問題が起きています。さらに、全国的に商店街も元気がなく深刻な状態にあります。

今、住民主体の地域活動は活発なのでしょうか。「元気

という自治体の評価の根拠には「祭りやイベントが活況」「住民主体の地域活動が活発」という意見が多く、祭り、イベントと地域活動が元気度評価のパロメーターになっています。しかし、地域づくりの活動が四、五年前に比べ、年々、地域の元気がなくなってきたのが現状です。元気度の評価は、行政に元気がなく、同時に住民にも元気がない傾向がみられます。

また、住民が誇りに思うことは、自然環境の資源であることがわかりました。歴史や文化遺産、暮らしやすさなど、人間が作ったものよりも、自然そのものを誇りに感じています。

また、目標となる自治体があるかという問いには、八割以上が「ない」という結果でした。全国のさまざまな地域が今までやってきた行政主体のまちづくりではなく、これからは住民参加がキーワードとなります。

「身近な地域の範囲」が個性あるまちづくりに

平成十六年十一月に法定協

勝沼町地域自治区研究会を設置 二十五名を委嘱

合併後の地域の自治、住民による自治をどのように伸展させていくかということ、最も重要な課題です。このため、合併までに勝沼町地域自治区のあり方を検討する「地域自治区研究会」を六月十五日(水)に設置しました。

区長会長さんや自治公民館長さん、合併協議会の委員さんなど、二十五人の方を委員に委嘱しました。合併後の区や自治公など、コミュニティをどのように活性化させていくかなど、さまざまな角度から研究し、地域自治区の運営に生かしていきます。

議会に加入している市町村を対象にアンケート調査を実施しました。

まず、現在の人口と合併後の新自治体の人口の分布では、現在の人口で一人未満の市町村が約六割を占めているのに対して、合併後の新自治体の人口では、十万人以上が約五割を占め、大きな市が増えているのがわかります。合併の形態では、新設合併が約八十五%、編入合併が十五%となっています。



鈴木輝隆さん
(江戸川大学社会学部教授)

合併後のまちづく

個性ある地域づくりの取り組みは約六割の自治体で行われ、お祭りやイベント、都市農村交流、地域間交流、環境・景観づくりが主な種類となっています。合併後の個性ある地域づくりを展開するために重要とされる地域づくりの単位は、現在の自治体全域「集落」「小学校区」「中学校区」という回答が半数を占めています。「地元」と言うのは、この「コミュニティ」のことを指し、新市全体で取り組むまちづくりよりも、「一番身近な地域の範囲」がもっとも重視され、個性あるまちづくりの継承に必要であると考えられています。勝沼全域で、地域自治区をつくっても集落が活性化されなければ、よいまちづくりにつながっていきかないと思います。

また、合併後の五年、十年先町が、後退してしまおうという予測がされています。その理由は、中心部だけが良くなり、周辺部が取り残される「個性を失い、住民の意見が反映されなくなる」ということです。地域住民による主体的な地域づくりをどのように展開すればよいのでしょうか。これは住民と行政の協働の関係を工夫していかなければなりません。

地域づくりを考える「場」を

地域自治組織を育てるためには、地域づくりを考える場が必要になります。この「場」をどのようにつくっていくべきなのか。住民が主体となり組織や団体をつくり指定管理者などで受け、施設運営までできることなども必要となります。

ます。合併をする前に住民の自治ができるような場を勝沼の四地区につくる必要があるのではないのでしょうか。

また、地域づくりの単位は、新市全域で考えるのではなく、地域の実情に応じた多様な単位で設定することも必要です。個性的な地域づくりが持続するために、地域の共感を得ながら、経済的な要素を取り込んでいかなければなりません。「コミュニティビジネスなど、勝沼のワインやぶどうがこれから先、計画的な経営を考えなければなりません。一次産業が元気で、地域産業を育て、農業者の地位を上げていく仕組みが必要です。

自分の地域は 自らの手で

住民自治組織が動くには、数年かかると言われています。勝沼町では、自治公民館活動などが行われています。それを生かしながら事業を展開し、自分たちが行政に発案し、その管理・運営は自治組織が責任をもつシステムをつくる必要があります。

住民自治の実績をもっている小さな町が他の地域をリードしながら、新しいまちづくりを行い、次の時代につなげていくことが必要です。

住民自治組織が継続し充実するためには、行政の積極的な情報開示と政策段階からの住民参画、さらに協働のシステムを整備する必要があります。合併により行政は変わっていきます。住民自身も危機感と責任感を持つことが大切です。

市町村合併により低下する機能と代替措置

《低下する機能》

- ・きめ細やかな行政サービスの希薄化
- ・地域意向の把握
- ・新市には馴染まない独自の施策の継承
- ・住民の自治意識の低下
- ・地域のことを考える企画力の低下



《代替措置》

- ・既存の地域づくり団体の育成・発展
- ・制度・仕組みづくり
(地域自治組織等の設置)
(まちづくり条例の制定)
- ・まちづくり中間セクターの設置
- ・ネットワークの形成



市町村合併後の地域づくりに必要な要素

(1) 行政機能の見直し

- ・住民による主体的な地域づくりへの支援(意欲的な地域への支援、条例等)
- ・情報公開、情報共有
(町民講座、地域振興懇談会等)
- ・地域予算による協働事業の実施
- ・地域の状況に応じた支所機能の選択と適切な職員の配置

(2) 地域自治の充実

- ・地域意向を適切に反映する体制
(特別区、地域自治区等)
- ・協働による地域の問題解決(公的サービス、景観整備、維持管理等)
- ・中間組織の育成、設置(シンクタンク機能、ネットワーク等)

(3) 住民自治の強化

- ・住民自治の基盤の確立
(人材、住民組織等)
- ・地域経営としての取り組み(コミュニティビジネス、地域資源の活用等)



地域で解決できない課題は行政へ

講演会では、先進地の具体的な自治区の活動が紹介されました。その中のひとつ、秋田県湯沢市の旧稲川町の事例を紹介します。

地域の安全を守る

「パトロール隊」結成

旧稲川町は旧町村(稲庭、三梨、川連、駒形)単位に自治区を組織しました。この自治区は、町内に七〇以上あった行政区を集落単位に再編。さらに四つの旧町村ごとに住民自治組織をまとめました。自治区内の公共的な課題を住民が協力、強調して解決することや、行政との連携を深め、活力に満ちた地域形成を図っています。

合併により自治体の規模が拡大することで「周辺住民の意見が行政に反映されにくくなるのでは」との声に対応したものです。その中で、各自治区内に住民で構成する「生活安全パトロール隊」を発足。警察と連携しながら住民自らが防災・防犯活動を展開し、

住民の手で安心して暮らせる地域づくりを目指し、活動が続けられています。

自治区単位で水路改修

稲川町の住民で組織する三梨町自治区では町の補助を受け、地区内の水路の改修工事を実施しました。

この地域では町に改修を要望していましたが、私有地ということもあり手をつけられずにいました。しかし、自治区が組織され「地域の課題は地域住民で解決したい」という住民の声を受け、町が助成し、住民自らが改修を行いました。

合併により、地域の課題を住民で解決するために自治区単位での積極的な活動が続いています。

小さな自治の大きな可能性

同時に、地域では解決できない課題を取りまとめ、行政の施策に反映させていくことも自治区の大きな役割となっています。甲州市でも、合

併後小さな自治をたいせつにしたまちづくりを進めるため、旧市町村単位の「地域自治区」を設けます。塩山市、勝沼町、大和村に三つの地域自治区を設置して、集約と分散の良い面を取り入れた合併を目指します。

地域自治区制度は、住民に身近な行政の事務を処理する機能と住民の意向を反映させる機能があります。

より多くの市民が主体的に地域づくりに参画することにより、住民と行政との協働による「新しい自治のかたち」を創りあげていくことができるとは思いません。

合併すると住民と行政の距離が広がり、周辺地域が寂れていくのではないかと懸念されています。

問題に対して、それを解決するためには、すべてを行政にゆだねるのではなく、自分たちの地域は自分たちで守り、創る。「小さな自治」の大きな可能性を自治組織が示しています。

シリーズ 「甲州市」をめぐる探訪



美しい恵林寺の庭園に心が癒され、しばしたたずみました

今回は、第五十一期ぶどう娘の谷口沙緒里さんと三森一満さんのお二人に塩山市の恵林寺と放光寺を歩いてもらいました。

今回、私たちは塩山市の恵林寺と放光寺を訪れました。塩山市は、隣の市ですが普段観光の名所をめぐる機会がなかったため、私たちは有意義な時間を過ごすことができました。

恵林寺のうぐいす廊下や庭園の素晴らしい風景に心が癒されました。放光寺でも青や紫や白色のあざやかなたぐいさんのアジサイが咲き誇りきれいでした。

今回、塩山市を歩き果樹栽培だけでなく、歴史も勉強できる素敵なまちをあらためて知ることができました。

今年の十一月、甲州市が



色とりどりのアジサイが咲き、放光寺の境内を楽しむふたり

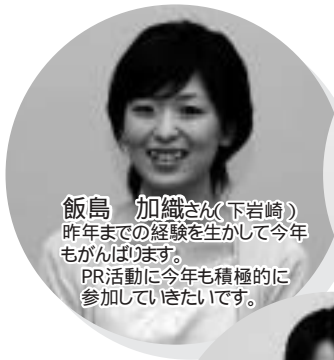
誕生することに大きな期待があります。ぶどう畑に囲まれた、豊かな自然と深い歴史をもつ勝沼町をこれからも守り、さらなる発展を目指し県内外の多くの人々が訪れる活気あふれる町にできれば素晴らしいこととす。

三市町村が、それぞれの良さを未来につなげ、調和し合う甲州市を目指し、他のどんな市にも負けないまちをみんなで作っていきたくたいです。

さわやかな笑顔で

ぶどうとワインをPR

第51期 ぶどう娘のみなさん



飯島 加織さん(下岩崎)
昨年までの経験を生かして今年もがんばります。
PR活動に今年も積極的に参加していきたいです。



伊藤 司さん(春日居)
映画鑑賞ドライブ
昨年に引き続き、今年もがんばります。多くのかたに勝沼のPRをしたいと思います。



久保田 恵理さん(勝沼)
旅行・スキーボード
今期でぶどう娘2期目となります。経験を生かして一生懸命がんばります。



小林 正実さん(大和村)
音楽鑑賞・人としゃべることが好きです。
勝沼町の観光PRを自分の笑顔と元気の良きでがんばります。



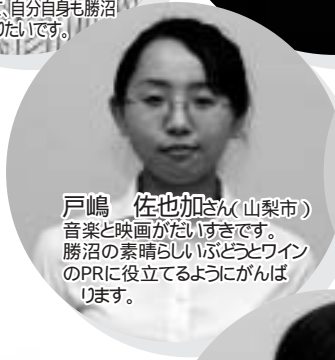
三枝 恵理さん(大和村)
手芸・書道
「ぶどうとワインのまち・勝沼」のPRを精一杯したいです。また、ぶどう娘の活動を通して、自分自身も勝沼町を知りたいです。



澤田 奈々さん(山梨市)
映画鑑賞
勝沼町のすばらしさを元気いっぱいPRします。



谷口 沙緒里さん(中原)
映画鑑賞・よく食べ、よく寝る健康な人間です。
初めてのことで不安もありますが、とにかく元気に笑顔で一生懸命がんばります。



戸嶋 佐也加さん(山梨市)
音楽と映画が大好きです。
勝沼の素晴らしいぶどうとワインのPRに役立てるようにがんばります。



三森 一満さん(斐山)
書道(師範目指しています。)
勝沼町として最後のぶどう娘に参加できうれしく思います。活動を通して自分自身の知識を深め、多くの人に勝沼を訪れてもらうようPRしていきます。



渡辺 友紀子さん(勝沼)
雑誌を読むこと
たくさんの方々に勝沼の素晴らしさを知っていただけるようにがんばります。
I LOVE 勝沼 ♥

名前
趣味・自己PR
抱負

第五十一期のぶどう娘さんが決まり、七月二日(土)に防災センターで委嘱式が行われました。
さわやかな笑顔で、今年も十名のぶどう娘のみなさんが県内外で行うキャンペーンなどで勝沼のぶどうとワインをPRしていただきます。昭和二十九年、勝沼町の誕生と共に歩み続けてきたぶどう娘。フレッシュな笑顔で張り切る第五十一期目のみなさんをご紹介します。



生涯学習の広場 KATSUNUMA Pick Up



キャンプ場が七月十八日に開村しました

大滝山 キャンプ場が開村 利用者の安全を願って

大滝山キャンプ場の開村式が六月十八日(土)に行われました。開村式に先立ち、少年ジャンボリを構成する団体や各小学校の先生方などがキャンプ場周辺の除草作業を行いました。その後、きれいになったキャンプ場で神事が行われ、利用者の安全を祈願しました。

大地の恵みに感謝 菱山小じゃがいも掘り

六月二十四日(金)に菱山小学校の学校農園でじゃがいもの収穫が行われました。全校児童が一生懸命栽培し、収穫の時期を向かえ、土の中から次々と出てくるじゃがいもに汗を流しながら掘り出す児童たち。小林忠樹校長先生は「じゃがいもの栽培を通して大地の恵みに感謝する気持ちを持ってもらいたい。収穫の喜びと食べ物の大切さを学んでくれたのではないでしょうか」と笑顔で話してくれました。



みんなで育てたじゃがいもに収穫の喜びを感じた児童たち

親子でふれあい、作品を作りました



個性豊かな作品がずらり

「親子で「勝沼焼」に挑戦！」

七月一日(金)に祝小学校五年生の親子が小佐手の「勝沼焼」で茶碗づくりを体験しました。勝沼焼の広瀬ひとみさんの指導を受けながら、楽しく作品を作りました。

はじめて体験する親子は「形や大きさが思うようにいかず難しかったです。自分だけの茶碗を子どもといっしょに楽しみながら作ることができました」と笑顔で話してくれました。世界にひとつだけの茶碗ができた親子で喜び合い笑顔があふれていました。

汗を流し、がんばる児童



夏休み期間、大規模工事が行われる



「勝沼小学校大運動会」 大規模工事のため 一学期に実施

六月二十五日(土)に勝沼小学校で大運動会が行われました。梅雨の時期で雨が心配されましたが、当日は晴天に恵まれ、青空の下で汗を流し競技する児童たち。家族やお友だちの声援を受け綱引きや、対抗リレーなど熱戦が繰り広げられました。

勝沼小学校は夏休み期間中と九月中旬に学校の大規模改造工事で秋に運動会が行えないため一学期に実施されました。

夏休み期間中、学校付近は工事車両の出入りなどがありますが、町民のみなさんのご理解とご協力をお願いいたします。

ボサノバの生演奏を聞きながら、料理とワインを味わった



**甲州ワインと
創作料理の饗宴**
～夏の夜の和飲会～

七月三日(日)にぶどうの丘イベントホールで夏の夜の和飲会が開催されました。甲州ワインに合わせたオリジナル料理とソムリエや醸造家によるワイン談義も行われました。会場には約七〇名のかたが訪れ、料理とワインを楽しんでいました。ぶどう農家の参加者は「忙しい時期でも、こうしたイベントに参加でき疲れを忘れるほど楽しませてもらいました」と笑顔で話してくれました。

**願いが
かなうかな？
七夕飾りつけ**

七月二日(土)に勝沼町図書館で七夕の飾りつけを行いました。来館するちびっこたちが、願いを書いた短冊を作り、みんなで七夕飾りに吊しました。



たくさんの願いが書かれた短冊が吊されています

子どもの心を育てるため、家庭や地域の人たちのふれあいが必要です



**青少年さわやか講演会
豊かな心を育てる**

七月六日(水)にぶどうの丘イベントホールで青少年育成勝沼町民会議主催による青少年さわやか講演会が開催されました。講師に山梨大学教育人間科学部の中村和彦先生を向かえテーマ「心を育てる」と題して講演していただきました。「遊び」が子どもの「こころ」や「からだ」の育ちにどのように関わっているのか、「心の問題」を解決する手立てなどについて話しました。また、家族や地域の人たちとのふれあいや自然に親しむ体験が子どもたちにとっての心を育てることを参加者といっしょに考えました。

**新農業委員に
二十七名**
農業行政を推進

七月十一日(月)に町民会館二階において農業委員会委員一般選挙当選証書、選任書の交付式が行われ二十七名のかたに交付されました。今後、農業者の代表者として、新しい農業行政の推進にご尽力をいただきます。なお、新しい農業委員は来月号で紹介しします。



新農業委員が決まる

食中毒に気をつけましょう

町保健師 櫻田 和香

保健師だより

いよいよ夏本番が近くなり暑い季節になってきますが、この時期になるとしだいに食中毒が起きやすくなつてきます。食中毒菌は私たちの身の回りのあらゆるところに潜み、ちよつとした「不衛生」を

狙って感染のすきをつかっています。家庭でできる食中毒予防で大切なことは、見た目の「きれいさ」よりも「衛生的」であることが大切です。また、食中毒の原因菌・ウイルスを、つけない、増やさない、消滅する、ことも大切になります。

「つけない」ポイントは、食品や手、調理器具はしっかり洗ことや、食品はサララップなどで包んだりふたのついた保存容器などで保存しましょう。

「増やさない」ポイントは、室内

に放置せず冷蔵庫に保存し、作った料理は早めに食べましょう。

「消滅する」のポイントは、食品内部まで十分に加熱する。調理器具は定期的に消毒をしましょう。

また、子どもと高齢者がいる家庭ではとくに注意が必要です。子どもは消化や腸内細菌、免疫力などが不十分であり少量の菌でも発症し重症化しやすいのです。高齢者も抵抗力が弱っていたり持病があることも多く、重症化しやすい原因のひとつです。万が一、食中毒の症状である吐き気、腹痛、血便、発熱、嘔吐、下痢、頭痛、神経症状などが現れたら家庭にある市販薬の胃腸薬や下痢止めを服用せずに、医師の診察を受けましょう。また、脱水症状にならないように水分を十分にとりましょう。



修理が進む祝橋

シリーズ 勝沼の近代化遺産

現在、眼鏡橋の愛称で親しまれてきた祝橋で大規模な修理工事が行われています。祝橋が完成したのは昭和五年、翌六年に開通式典が行われました。新祝橋の完成後は歩道として保存されることになり、平成九年五月には国の登録文化財にもなり、勝沼を代表する近代化遺産となっていますが、完成以来すでに七十五年の歳月がすぎ、痛みもめだつようになっています。

この祝橋が、新たに重要な役割を担うことができないかと申し入れがあったのは昨年です。その役割とは峡東地域広域水道事業団が建設している琴川ダム水道水の本管が日川を渡る水道橋となることです。国県の指導を受け、その第一歩は、痛み具合の調査と、さらに補修をした場合に、多くの人の暮らしを支える水道橋として使用に耐えられるかの耐久力の検証でした。痛み具合を調べるため、舗装の一部をはがしたり、ボーリグ調査も行われました。その

勝沼のシンボル『祝橋』新たな活用へ

結果、コンクリート自体の劣化とびび割れ、雨水の浸入による鉄筋の腐食、橋を支える橋台の変形などが、さらに、欄干自体が橋本体と分離し倒壊する危険性なども見つかりました。これらの補修を行えば、まだまだ十分新たな役割を担えるだけの構造的な強さも確認されました。

これを受け、始まったのが現在行われている修理と水道本管の敷設工事です。水道管はパランスを考慮路面上の中央に設置し、そのカバーにはベンチと祝橋の説明板も設置されることになっており、平成十七年十月には補修を終え、水道橋としてまた橋の資料館として見学、通行できるようになる予定です。祝橋が再び勝沼のシンボルとしてさらに暮らしには欠くことのできない水を守る橋としてよみがえります。

なお、前回の休息のT字型取水施設は、川の名前を田草川と紹介してしまいましたが、鬻柳川の間違いでした。訂正いたします。

(町教育委員会 室伏徹)



峡東地域広域水道事業団が建設している琴川ダムの水道水の本管が日川を渡る水道橋となる。今年10月に完成予定

旬のアイデアメニュー料理

CATV放映中!

夏野菜の揚げびたし

勝沼町食生活改善推進委員会

材料(4人分)

なす	2個	A	・めんつゆ (2倍濃縮)1/2カップ
赤ピーマン	1個		・水
かぼちゃ	100g		
オクラ	1袋	揚げ油	適量
しょうが	1かけ		

作り方

なすとピーマンは4つに切り、かぼちゃはくし型に切る。オクラはへたの部分を整え、ようじ



1人分: 82kcal

などでところどころに穴をあける。(油で揚げたときに破裂を防ぐため)

揚げ油を高温に熱しての野菜を素揚げにする。

しょうがをおろしてAと合わせ、が熱いうちに漬け込む。あら熱がとれたら出来上がり。

「アイデアメニュー」の作り方は、CATVリクエストチャンネルでご覧いただけます。みなさんも作り方をご覧になり、食卓の一品にいかがですか?

かつぬま文芸

俳句

アジロンの会

大学の隣は石屋梅雨灯

金子 白河

青葡萄乗車急かせる女ご息

向山 房男

山の日の隈なくとどく青葡萄

砂田 文江

てのひらに残る糸宵梅雨ふかむ

阪本 晋

晴れ兆すなり青葡萄太るなり

石原 林々

翔らてすぐ戻る鳥声青葡萄

内田 春江

林立す花の擬宝珠に風を生む

栢 貫太郎

石庭の苔もり上がり梅雨深し

古屋 悠二

右門忌の闇に青柿落つる音

石原 右生

町長への手紙



問い

町では町内の保育所に委託して学童保育を行っていますがお聞きしたいことがあります。私は、祝ふれあい親子館の学童保育に子どもを預けていますが、どのような保育を行っているのでしょうか。また、町内のほかの学童保育料とは違うのでしょうか。(祝地区・女性)

答え

町では保育所などと同様に子どもたちの安全第一を考え、学童保育の事業を行っています。祝ふれあい親子館の運営については、岩崎保育園に委託しており、原則三名の保育士により保育を行っています。子どもたちは館内や前庭で勉強したり遊んだり、また、勝沼町図書館で読書をするなど保育士と一緒に過ごしています。親子館の前庭には、ボールや子どもたちが急に飛び出すことのないようにネットを設置し、図書館への行き返りは必ず保育士が付き添い、歩道橋を利用していきます。

料金体系は、町が委託している勝沼保育園の学童保育の料金と同様です。通常の期間は、平日のみ利用で月額六千円(おやつ代二千円含む)、土曜日も利用した場合は二千円の増加となっています。夏期休暇中の料金も町内同一の料金体系となっています。時間延長など、詳しくは役場健康福祉課までお問い合わせください。

今後も、児童の健全育成が図れるように、積極的に事業を推進してまいりますので、お気づきの点はお気軽にお寄せください。

お問い合わせ

役場健康福祉課 四四 一一一(内線二二)

町長からの手紙 地域や一人ひとりの個性を大切に

梅雨明けまで、あと少しといったところでしようか。高校野球の県予選も開幕し、盛夏の到来も間近です。町内の高校球児たちの活躍が楽しみです。露地ぶどうの収穫も迫ってきました。デラウェアの出荷作業場から流れる高校野球のラジオ中継、勝沼の夏の生活を映し出す風物詩のように感じます。

合併まで三か月余りとなりました。いよいよカウントダウンの段階です。七月四日に「合併後のまちづくりを考えよう」地域自治区をどう生かす」と題する講演会を行いました。江戸川大学の鈴木輝隆教授を招いて、合併しても、勝沼町の個性や住民自治が埋没しないようにするために、どうしていけばよいのか、先進地の事例などを参考に、お話をさせていただきました。会場には、区長さんや自治公民館長さんをはじめ大勢の皆さんが集まり、熱心に聴き入っていました。講演の要旨は、今号で紹介させていただきますので、ぜひ一読ください。

合併に伴い懸念されるデメリットを跳ね返して、より暮らしやすく、輝く地域と一緒に築いていけるよう、前段階の仕組みづくりに残された時間、精一杯力を注いでいきたいと気持ちを引き締めています。

学生時代に、個人主義と利己主義の違いについて、よく先生から話を聞いたことを思い出します。「地域自治区」の制度は、この話の延長線上にあると思います。制度を提唱した当初は、地域工コと誤解された向きもありましたが、議論を通じて理解が得られていきました。地域や一人ひとりの個性を大切にする姿勢から住民主体のまちづくりが始まると思います。講演を聴きながらその念をより強くしたところです。

勝沼町長 三枝 武人

みんなのアイドル ちびっこフォト

かわいい瞳 みんな元気



げんま けんし
弦間拳士(2歳)・さり(4か月) (勝沼)
拳士くんはおもちゃの車がだいすき、さりちゃんは最近寝返りして元気いっぱい。これからも兄弟なかよく明るく育てねと、父・浩士さん、母・いづみさん。



おはたけ みな
尾島未菜ちゃん (2歳) (勝沼)
超のつくほど元気な未菜ちゃん。人の気持ちのわかるやさしい子に育てねと、父・克巳さん、母・悦子さん。

ちびっこフォトでは、元気なお子さんの写真を募集しています。ご両親のコメントを添えて広報担当までお申し込みください。

初夏の彩りアジサイの花が咲いています。今年も早くから暑さを感じますが、冷房の部屋から離れられなくなっていますか？
広報担当三年目の夏、「記事は足で稼げ」と言われますが、どうしても出不精になりがちになってしまふ。しかし、勝沼の美しい景観や自然の中へ出かけたり、いろんな人に出会い話を聞くと、私の知らない世界を見ることができ取材も楽しく感じます。自分の目指す広報に情熱を持って取材に走り回ろう。
外は梅雨明けを待ちわびてせみの声が聞こえてきます。取材でカメラのファインダーをのぞきこむと空はすでに夏の入道雲が姿を見せています。今年の夏も暑くなりそうです。暑さに負けずみなさんがんばりましょう。(H)

編集後記

お誕生

地区	氏名	保護者
勝沼	渡辺 陽菜	彰彦・睦美
"	清水 凛	英也・新果
下岩崎	矢野 一透	一彦・直美
小佐手	佐藤 優吉	謙吾・由美
"	長谷川 凛	和也・のぞみ

ご結婚

地区	夫	妻
深沢	三枝 雅史	高井 志穂
山	和田 英樹	望月 千穂

おくやみ

地区	氏名	年齢	届出人
勝沼	佐野 四日	94	佐野 隆行
等々力	笠井 庚藏	94	新海三千男
上岩崎	市川 吉郎	85	市川 勝徳
小佐手	高埜 琴江	77	高埜 良一
"	梅原 修	50	梅原 るみ
山	鈴木 修二	52	鈴木 裕子
"	辻 雪男	90	辻 和政
休息	丸山 玉江	83	丸山 芳正
菱山	三森 なみ江	90	三森 眞治

平成17年6月1日～6月30日届出(敬称略)